

岡崎市中央図書館大量アクセス事件

概要…自作のプログラムで**機械的に大量**のアクセス
→ホームページが利用できない状態に

逮捕された男性によると、
・サイトを効率的に利用
・「**大量**」アクセスはしていない

実際、男性のプログラムは常識的
→図書館のソフトに欠陥

この事件は犯罪だったのか？

- 罪状は業務妨害罪、実名報道も
→過失ではなく**故意**であったということ

なぜ故意が認められた？（以下引用）

『コンピュータに詳しい技術者なので、リクエストを大量に送りつけたら、図書館のサーバに影響が出ることを予想できた。事実、まったく予想しなかった訳ではなく、少しは影響が出ることを予想していたはずだ。それなのに、リクエストを大量に送りつけたので、「故意があった」と判断した。』（librahackより）

→犯罪とは呼べない！！

警察が軽率な判断で逮捕してしまったことが問題である

- 男性側が一方的に罪に問われた
- 警察の捜査に専門家の不在
- 図書館のソフトの欠陥が判明したのは逮捕後

参考

基調講演 “Librahack”事件を総括する（高木浩光）

Librahack 岡崎図書館事件まとめ（容疑をかけられた男性）